

資料

1 あゆみ

旭川市は、明治23年9月20日道庁令第61号によって旭川村として誕生した。旭川消防の歴史は、私設消防組、公設消防組、警防団及び自治体消防の時代に大別される。

私 設 消 防 組 時 代		
明治21年	3月	消防組設置準則制定（道庁訓令第32号）
明治25年	5月	火の見櫓建立 ・1条通2丁目右9号に札幌警察署旭川分署庁舎と火の見櫓を建立する。
	9月	仮の消防隊を組織 ・宮内大臣が視察のため来旭することに伴い、杉谷宇右衛門氏の発案により、有志によって仮の消防隊を組織し宿舍警備にあたる。
明治26年	10月	私設消防組を組織 ・当時駅遞を経営していた阿部格太郎氏を中心に私設消防組を組織する。
明治27年	2月	旭川村初の消防出初式実施
	6月	私設忠別消防組認可 ・1条通3丁目に番屋を設置し、竜吐水ポンプ1台と消防用具を備える。
公 設 消 防 組 時 代		
明治27年	12月	旭川村忠別消防組と称する。
明治33年	6月	旭川消防組設置（2部制） ・1条通6丁目の第一部番屋に火の見櫓を建設する。
明治35年	4月	鷹栖村の一部を編入 ・字近文6号以南、近文台地以東の地が旭川に編入される。
	5月	消防番屋新築（3部制） ・現在の旭町1条3丁目に消防番屋が新築され、同年10月には14mの木製望楼が建立される。
	11月	ドイツ製腕用ポンプ購入
明治39年	5月	第二部番屋新築（4部制） ・3条通10丁目左1号に消防番屋を新築する。
明治40年	3月	常備体制施行 ・蒸気ポンプ1台を購入し、4人の常備員を配置する。
明治41年	4月	常備体制整備 ・常備員を16人とする。
明治44年	7月	第五部番屋新築（5部制） ・5条通18丁目右10号に消防番屋を新築する。
	9月	蒸気ポンプを購入し消防手30人増員
大正 4年	4月	第二部番屋改築移転 ・3条通9丁目左10号に木製望楼付消防番屋を建築する。
大正 5年	4月	常備部設置 ・3条通9丁目「第二部」を常備部に改め、消防員25人とする。
	5月	第二部番屋移設（6部制） ・1条通14丁目左1号に消防番屋を建築する。 ガソリンポンプ配備 ・市民からの寄贈により、旭川初のガソリンポンプ（森田式20馬力）を

大正 5年	5月	常備部に配置する。
大正 7年	5月	市民（2人）から飛行機式ガソリンポンプ3台寄贈
大正 9年	8月	町内各所に振鈴設置
大正10年	4月	第六部消防番屋新設（7部制） ・3条通19丁目右10号に消防番屋を新設する。
	6月	レンガ造望楼竣工 ・高さ33mのレンガ造望楼が、常備部に築造され、従前使用の木製望楼を6条通15丁目左10号に移築する。
大正11年	4月	旭川消防組後援会設立 ・消防組員等の慰安及び公務功労に対する表彰並びに公務上の負傷或いは死亡に対する救済その他消防遂行を目的に設置する。 第七部番屋新設（8部制） ・3条通2丁目に第七部消防番屋を新設する。
	8月	旭川市制施行
大正12年	4月	特科部新設（9部制） ・先着隊として出場し、破壊作業を主に延焼拡大阻止を目的に常備部に設置する。 電話架設 ・常備及び各消防番屋に電話を架設、出場体制の迅速を図る。
	5月	消防ポンプ自動車配備 ・上川管内初の消防ポンプ自動車が市民らの寄付金によって常備部に配備される。
大正13年	11月	特科部消防番屋新設 ・常備部から常盤通りに特科部消防番屋を新築する。
昭和 2年	4月	道庁令消防強化令公布により望楼見張勤務開始
昭和 4年	5月	消防手 高橋佐助氏 殉職
昭和 7年	11月	永山村の一部（新旭川地区）を編入（10部制） ・永山消防組第二部が旭川消防組に編入され、旭川消防組第八部に改称する。
昭和 9年	7月	北海道消防組代表者検閲式 ・財団法人大日本消防協会総裁梨本宮殿下の御検閲を受ける。
	8月	旭川消防組記念碑除幕式 ・篤志者の寄付によって常磐公園に消防碑を建設する。
昭和10年	6月	旭川市防護団発団式 ・戦局の拡大により、民間防空組織として防護団を結成する。
警 防 団 時 代		
昭和14年	4月	旭川市警防団発足 ・防護団及び消防組を解散し、警防団に改編される。（6分団 定員1,065人）
昭和17年	9月	東旭川村の一部（東光・豊岡地区の4丁目に至る地区）を編入
昭和22年	3月	旭川市火災予防協会創立（昭和23年4月旭川市火防協会と改称）
	4月	勅令消防団令公布

昭和22年	4月	・勅令185号を以て，警防団が解散され，消防団令が公布される。
	8月	旭川市消防団発団式 ・旭川市役所において，勅令消防団令に基づく消防団結成式が団長以下500人の出席を得て開催される。
自 治 体 消 防 時 代		
昭和22年	12月	消防組織法制定
昭和23年	3月	消防組織法施行 旭川市消防条例制定
	6月	旭川市消防本部初代消防長就任 ・前美幌警察署長久末喜代松氏が消防長兼署長として就任する。
	7月	消防法公布
	10月	旭川市消防条例制定 ・組織法の施行に伴い，消防本部，消防訓練所，消防署（常備出張所5・予備出張所5）さらには消防団（9分団，定員250人）を設置し，消防体制の強化を図る。
昭和24年	1月	消防士採用規則制定
	11月	消防出張所名称改称 ・旭川市消防署，西消防所，大成消防所，北星消防所，春光消防所，新旭川消防所（常備），東消防所，朝日消防所，中島消防所，近文消防所（予備）に改められる。
昭和25年	4月	東神楽村の一部を編入
	6月	東消防所を常備とし，大成消防所を廃止
	8月	第2回北海道消防大会開催 ・第2回北海道消防大会が，旭川東高等学校を会場に，全道消防関係者600人及び東京消防庁音楽隊参加のもとに開催される。
昭和26年	4月	消防本部内に団本部設置 東鷹栖村の一部を編入
	5月	消防自動車番号称廃止 ・消防自動車の番号称を廃し，坂東幸太郎市長の命名による愛称に改称する。
	10月	旭川市少年消防クラブ結成 ・市内小学校19校587人の加入をもって結成される。
昭和27年	4月	消防手数料条例制定 救急業務開始 ・消防車を改造「天使号」と命名し救急業務を開始する。
	9月	消防司令補 黒沢武男氏 殉職 新型消防ポンプ自動車配備 ・道内初の「リヤカー格納」，「小型動力ポンプ積載」の消防ポンプ車を購入配備する。
	10月	旭川市消防音楽隊結成（15人編成）
昭和28年	9月	北海道水防演習 ・旭橋下流において，全道水防演習が実施される。
昭和29年	4月	旭川市水防団設置

昭和29年	8月	火災報知機第1号機設置 ・第1号機起工式が2条通7丁目右1号において行われる。
昭和30年	1月	消防所名称を変更 ・常備消防所の名称を出張所に改め、予備消防所を分遣所に改称する。 旭川市火災予防条例・旭川市危険物条例を制定
	7月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車が寄贈され「損保号」と命名
	11月	神居分遣所設置
	12月	第2代消防長に井内謹二氏就任
昭和31年	4月	消防本部整備工場設置認可
	8月	北星出張所改築移転 ・川端町4丁目（現旭町1条3丁目）を廃止、春光町1番地に工費470万円をもって鉄筋コンクリート造26m望楼付消防庁舎が完成する。
昭和32年	5月	消防司令補 中原日出夫氏 殉職
昭和33年	5月	火災報知機虚報防止策として、ベル取付工事を開始
	11月	消防本部・署移転 ・市総合庁舎新築に伴い、消防本部と署を、3条通9丁目から6条通9丁目の新庁舎に移転する。
昭和35年	7月	第3代消防長に紺野勝三氏就任
	9月	新旭川出張所改築移転 ・パルプ町4丁目庁舎を廃止、現大雪通9丁目に改築移転する。
昭和36年	5月	第4代消防長に五井辰雄氏就任 消防士長 石成三七男氏 殉職
	8月	西出張所庁舎竣工
	9月	旭川信用金庫から消防ポンプ車が寄贈され「信金号」と命名
	10月	防火相談所開設 ・署及び各出張所に防火相談所開設する。
	12月	消防本部初の査察車を配備
昭和37年	3月	消防本部・消防団が消防庁長官表彰受賞 ・消防力の拡充強化に対し、優良消防機関として竿頭綬を授与される。 旭川市少年消防クラブが消防庁長官表彰受賞
	7月	旭川市少年消防クラブが内閣総理大臣表彰受賞 旭川市防火管理者協会設立（昭和39年度に旭川市防火管理協会に改称）
	9月	東出張所庁舎竣工 ・鉄筋コンクリート望楼付庁舎に改築する。
	10月	屈折はしご付ポンプ自動車配備「那智号」と命名
昭和38年	8月	旭川信用金庫から水槽付消防ポンプ自動車が寄贈され「第二信金号」と命名
	11月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車が寄贈され「火災保険号」と命名
昭和39年	3月	旭川ガスから救急自動車が寄贈され「第二天使号」と命名
	4月	第5代消防長に梅津秀太郎氏就任

昭和39年	7月	第16回北海道消防大会が常磐体育館において開催
	11月	朝日分遣所消防庁舎竣工 ・現在の豊岡4条3丁目に鉄筋コンクリート造3階建消防庁舎竣工する。
昭和40年	5月	防火モデル地区発足 ・出火防止対策として中央区5町内会を防火モデル地区に指定する。
昭和41年	4月	2署制施行 ・機構改革により旭川消防署を南消防署に，北星出張所を北消防署に昇格し2署制を施行する。
	5月	永山消防庁舎竣工 ・鉄筋コンクリート造2階建の庁舎に消防訓練所と永山分遣所を開設する。
	8月	第6代消防長に宮下勝一氏就任 住友生命保険相互会社から救急自動車が寄贈され「しらゆり号」と命名
	11月	水槽付消防ポンプ自動車購入「電光号」と命名
昭和42年	2月	朝日分遣所を出張所に昇格
	3月	名誉市民 坂東幸太郎氏に対し消防功労者として旭川初の金色ヘルメットを贈呈
	11月	はしご付消防ポンプ自動車購入「凌雲号」と命名
昭和43年	1月	消防器具車購入「旭光号」と命名
	2月	朝日出張所を豊岡出張所に改称
	3月	神楽町を合併 ・神楽町消防本部を廃止，神楽出張所を設置し，西神楽分遣所を開設する。
	4月	第7代消防長に高橋虎太郎氏就任
	9月	第20回北海道消防大会開催 ・常磐公園を会場に自治体制度20周年記念北海道消防大会が3,800人の参加を得て開催され，併せて，昭和天皇・皇后両陛下の御臨席を仰ぐ。
昭和44年	2月	化学消防自動車購入「桂月号」と命名
	7月	東旭川消防庁舎竣工 ・鉄筋コンクリート造一部2階建の庁舎に，東旭川分遣所を開設する。
	12月	消防ポンプ自動車購入「はやぶさ号」と命名
昭和45年	7月	旭川市危険物安全協会設立
	12月	水槽付消防ポンプ自動車購入「旭竜号」と命名
昭和46年	3月	東鷹栖町を合併 ・東鷹栖分遣所を設置する。
	4月	旭川市消防用設備等整備資金貸付制度開始
	11月	日本損害保険協会から屈折式はしご車が寄贈され「火災保険号」と命名
	12月	春光出張所改築移転
昭和47年	1月	消防ポンプ自動車購入「北海号」と命名
	2月	旭川信用金庫から救急自動車が寄贈され「はくちょう号」と命名
	3月	旭川市少年消防クラブ班消防庁長官表彰受賞

昭和47年	3月	旭川ロータリークラブから査察車が寄贈され「おおぞら号」と命名
	4月	第8代消防長に畠山武雄氏就任
昭和48年	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入「大雪号」と命名
	6月	救助隊発足 ・消防救助隊運用要綱を制定，1隊4人体制で南消防署に配置し，運用を開始する。 旭川市危険物安全協会から査察車寄贈
	10月	旭川消防創設80周年記念式典を挙行，あわせて記念誌「旭川消防80年」を発刊
昭和49年	9月	40m級はしご車購入「昇竜号」と命名 大型水槽付消防自動車購入「豊流号」と命名
	10月	北消防署に救助隊配置
	12月	消防仮設訓練塔完成
昭和51年	2月	市民から査察車が寄贈され「富士号」と命名
	5月	住友生命保険相互株式会社から救急自動車が寄贈され「しらゆり号」と命名
	6月	公設火災報知機全面撤去 ・昭和29年の1号機設置以来，全市246基を数えた火災報知機が電話の普及により撤去となる。
	12月	救急指令装置導入 火災案内電話開設
昭和52年	4月	夜間急病テレホンセンター開設 ・夜間及び休日等における開設当番病院の電話紹介を開始する。
	5月	望楼勤務廃止 ・一般加入電話の普及と，建築物の高層化に伴い，望楼による見張勤務を廃止する。
	11月	救助工作車購入「いなづま号」と命名 旭川トヨペット株式会社から査察車が寄贈され「あさかぜ号」と命名
	12月	旭川市婦人防火クラブ地区規約が制定され，東旭川地区婦人部防火クラブ結成
昭和53年	2月	旭川ライオンズクラブから救急自動車が寄贈され「天使号」と命名
	7月	旭川市消防職員等褒賞基金条例制定 ・同年3月7日の消防記念日に自治体消防30周年を記念して，消防法の生みの親である故坂東幸太郎氏の夫人シマ様から，本市消防行政に対し寄付を受けたことに伴い，同氏の功績を永く後世に伝承するため基金条例を制定する。
	9月	永山分遣所を出張所に昇格
	11月	第9代消防長に荒尾平助氏就任
昭和54年	6月	旭川婦人防火クラブ連合会結成
	8月	第1回婦人防火クラブ北海道大会を開催
	10月	調査指導係を南北消防署に配置
昭和55年	9月	第10代消防長に近藤福男氏就任
	12月	旭川通運株式会社から救急自動車が寄贈され「はくちょう号」と命名

昭和55年	12月	北消防署近文分遣所庁舎竣工
昭和56年	5月	「適マーク」制度全国一斉実施
	8月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車寄贈
	9月	財団法人日本消防協会から救助救出用資材搬送車が寄贈され「日消号」と命名
昭和57年	1月	はしご付消防ポンプ自動車購入「飛翔号」と命名
	4月	旭川市幼年消防クラブ結成 ・北私幼旭川支部加盟幼稚園17園をもって発足する。
	6月	旭川市防火管理協会から査察車寄贈
	9月	旭川市消防音楽隊創立30周年記念式典を開催
	11月	化学消防自動車購入「電光号」と命名
昭和58年	2月	旭川ライオンズクラブから救急自動車が寄贈され「天使号」と命名
	5月	協同組合チェンクレジットから指揮官車2台寄贈
	8月	消防本部・南消防署移転 ・市第二合同庁舎新築に伴い、6条通9丁目から7条通10丁目に移転する。
	9月	水槽付消防ポンプ自動車2台購入「つばさ号」「あさひ号」と命名
	10月	消防訓練塔竣工
昭和59年	4月	第1回消防フェスティバル開催 ・銀座しあわせ広場において市民対話による消防フェスティバルを開催する。
	10月	国際ソロプチミスト旭川から救急自動車が寄贈され「ソロプチミスト号」と命名 消防訓練所グラウンド整備 ・陸上自衛隊第2施設大隊部外工事をもって完成する。
	12月	北消防署新旭川出張所改築工事竣工
昭和60年	4月	旭川市幼年消防クラブ連合会結成
	9月	水槽付消防ポンプ自動車購入「いしかり号」と命名
	10月	第1回自衛消防訓練大会開催 ・市内大型デパート等の自衛消防隊11隊による訓練大会が開催される。
	12月	旭川東ライオンズクラブから査察車寄贈 はしご付消防ポンプ自動車購入「那智号」と命名
昭和61年	6月	旭川市婦人防火クラブ連合会が北海道消防協会表彰受賞
	8月	北海道総合防災演習開催
	9月	水槽付消防ポンプ自動車購入「はやぶさ号」と命名
	10月	化学消防自動車購入「旭光号」と命名
	11月	第11代消防長に和田巖氏就任
昭和62年	5月	旭川市火防協会から連絡車寄贈
	7月	財団法人日本宝くじ協会から救急普及啓発広報車及び蘇生訓練用シミュレータ寄贈
	10月	消防ポンプ自動車購入「北海号」と命名 水槽付消防ポンプ自動車購入「あかつき号」と命名 救急自動車購入「しらゆり号」と命名
昭和63年	2月	旭川ライオンズクラブから救援車が寄贈され「天使号」と命名

昭和63年	6月	防火管理協会から消防音楽隊に対しマーチングドラム寄贈
	9月	第8回幼年消防全国大会を大雪アリーナで開催
	10月	水槽付消防ポンプ自動車購入「ぎんれい号」と命名 救急自動車購入「はくちょう号」と命名
		神居分遣所改築工事竣工
	11月	第12代消防長に佐藤勝次氏就任
	12月	十勝岳噴火による消防支援体制を確立
平成元年	4月	東旭川分遣所を出張所に昇格 消防車両の愛称を廃止
		財団法人日本消防協会から消防指令広報車寄贈
	11月	救助工作車購入
	12月	耳の不自由な方を対象にファクシミリによる緊急通報システムを稼働
平成 2年	3月	民間救急認定証交付式
	5月	市開基100年記念消防フェスティバルを開催
	7月	旭川市シルバー防火クラブ連合会設立
	9月	災害弱者緊急通報システム事業（ホットライン119）稼働
	10月	第一ホテル会長から連絡車及び携帯用無線機1式寄贈 高速自動車道トンネル防災演習
		水槽付消防ポンプ自動車購入 救急自動車購入
	12月	南消防署忠和出張所竣工
平成 3年	2月	日本消防協会特別表彰「まとい」受賞 ・平成2年度日本消防協会定例表彰において最優良消防団として特別表彰「まとい」を受賞する。
		南消防署忠和出張所開設 ・神居地区及び道央自動車道の災害に対応するため消防車，救急車の2車両を配置し開所する。 北海道広域消防相互応援協定締結
	7月	第1回旭川市シルバー防火クラブゲートボール大会開催 神居分遣所廃止
	10月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	11月	日本損害保険協会から救助工作車寄贈 はしご付消防ポンプ自動車を購入
平成 4年	2月	北消防署改築移転 ・大町3条5丁目に北消防署が改築移転され附属体育館併設の庁舎が完成する。
		救急救命士誕生
	6月	旭川市防火管理協会から放送設備1式寄贈
	11月	南消防署豊岡出張所に救急車配備 救急 ・ 課程開講式 ・旭川市及び道北地区並びに近隣消防本部受講希望者をもって救急 ・ 課程講習を開講する。
平成 5年		2月

平成 5年	3月	旭川市消防音楽隊創立40周年記念式典を開催 大型水槽付消防ポンプ自動車購入
	5月	旭川市消防創設100年記念消防フェスティバルを開催
	6月	第45回北海道消防大会を大雪アリーナにおいて開催
	7月	週休2日制導入 北海道広域消防相互応援協定に基づき北海道南西沖地震被災地に6人を派遣
	10月	旭川市消防創設100年記念式典を挙行，あわせて記念誌「旭川市消防100年のあゆみ」を発刊
	11月	はしご付消防ポンプ自動車購入 高規格救急自動車購入
	12月	北消防署永山出張所に救急車配備
平成 6年	4月	消防緊急情報システム運用開始 第13代消防長に渡邊和雄氏就任
	7月	高速自動車国道救急救助活動等に関する協定書を旭川市医師会と締結
	8月	財団法人日本消防協会から指令広報車寄贈
	11月	災害救援車購入配備
平成 7年	1月	高規格救急自動車購入
	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	9月	救急部隊1隊と救助部隊1隊が緊急消防援助隊として登録
	12月	コミュニティ防災資機材等整備事業（自主防災組織活動）開始
平成 8年	1月	高規格救急自動車購入 水槽付消防ポンプ自動車購入
	4月	第14代消防長に高田朋英氏就任
	7月	南消防署東出張所に救急車配備
	11月	はしご付き消防ポンプ自動車（30m級）購入
平成 9年	3月	災害対応特殊救急自動車購入 北消防署春光出張所に救急車配備 旭川塗料商業協同組合から連絡車寄贈
	4月	女性消防吏員を採用 ・本市消防本部に初めての女性消防吏員を採用する。 服制規則改正 ・従来の服制を大幅に見直し，執務服，アポロキャップ等を導入する。
	11月	婦人防火クラブ連合会設立20周年記念式典を開催
	12月	機構改革を実施 ・消防訓練所，指令係，指揮隊を統合し，指令統制課とする。
平成10年	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	11月	救急自動車購入
	12月	第15代消防長に竹村政芳氏就任
平成11年	1月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	6月	第51回北海道消防大会を大雪アリーナにおいて開催
	8月	財団法人日本消防協会から広報車寄贈
	12月	市民から火災原因調査車寄贈

平成11年	12月	化学消防ポンプ自動車購入
平成12年	3月	有珠山の火山活動に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づき、道北応援隊として、平成12年3月30日から平成12年4月28日までの30日間延236人の応援隊を派遣
	6月	旭川中央ライオンズクラブから蘇生訓練用生体シミュレータ寄贈
	10月	全国共済農業協同組合連合会北海道本部から救急自動車寄贈
	11月	災害対応特殊救急自動車購入 水槽付消防ポンプ自動車購入
平成13年	4月	在宅高齢者世帯等の支援事業として、旭川市災害弱者訪問サービス事業（ほのぼの訪問サービス事業）が開始
	12月	救急自動車購入 災害対応特殊化学消防ポンプ自動車購入
平成14年	4月	第16代消防長に兼松輝義氏就任
	5月	消防司令補 有馬秀彦氏 殉職 旭川市防火管理協会からプロジェクター・パソコン1式寄贈
	9月	南消防署神楽出張所改築移転 ・神楽4条4丁目から、神楽4条7丁目に移転する。
	10月	旭川市市民委員会連絡協議会婦人部会から救急自動車寄贈 救助工作車（ 型）購入
平成15年	2月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車寄贈 国際ソロプチミスト旭川若葉から救急処置指導用シミュレーション人形寄贈
	4月	防災業務を消防本部に移管 訪問健康等推進事業を稼動
	11月	第1回119オータムフェア開催
	12月	破壊工作車「ありま号」購入 水槽付消防ポンプ自動車購入
平成16年	2月	旭川地方たばこ販売協同組合から緊急通報システム取扱いカード1,600枚寄贈
	5月	旭川市消防協会からアンプセット（音響機器）1式寄贈
	6月	第56回北海道消防大会を大雪アリーナにおいて開催 消防修理車購入 消防連絡車購入
	10月	水槽付消防ポンプ自動車2台購入
平成17年	3月	「破壊工作車（ありま号）」の考案について消防庁長官表彰受賞 救急自動車購入
	4月	第17代消防長に岡本芳明氏就任 初代防災監に稲垣紀夫氏就任
	5月	旭川市消防協会から防火イベント用着ぐるみ「ホットくん・ラインちゃん」2体寄贈 旭川市管工事業協同組合から訓練用AEDトレーナー4式寄贈
	6月	国際ソロプチミスト旭川からAED1式寄贈
	7月	旭川市消防団第10分団後援会から車載用無線機及び携帯用無線機1式

平成17年	7月	寄贈 旭川市消防団東鷹栖連合後援会から携帯用無線6局寄贈
	11月	消防査察車購入 予防査察車購入
	12月	鈴木商会からA E D4式寄贈 水槽付消防ポンプ自動車購入
平成18年	6月	株式会社トヨタレンタリースから連絡車寄贈
	10月	日本オイルターミナル株式会社から危険物違反調査用機器及び現場撮影機器1式寄贈 旭川トヨペット株式会社から連絡車寄贈 水槽付消防ポンプ自動車購入
	11月	特定非営利活動法人旭川市消防協会から訪問健康相談等システム1式寄贈
	12月	株式会社ムトウ旭川支店から高度救急シミュレータ及び心電計1式寄贈
平成19年	1月	株式会社サンシン旭川スクラップセンターからA E D10式寄贈 第18代消防長に稲垣紀夫氏就任 第2代防災監に岡本芳明氏就任
	3月	旭川市消防団永山地域分団からメール配信による出動指令機器(パーソナルコンピュータ1式)寄贈
	6月	株式会社村本金属から高規格救急自動車寄贈
平成20年	4月	第19代消防長に太田義正氏就任
	6月	旭川市防火管理協会, 旭川市危険物安全協会, 旭川市消防協会, あんしん協会, 旭川市婦人防火クラブ連合会, 旭川市消防団から旭川市消防音楽隊冬隊服35式寄贈
	7月	洞爺湖サミットに指揮隊車1台, 消防ポンプ車1台, 救急車1台, 26人派遣
	8月	総合防災センター中核施設竣工
	9月	南消防署西出張所閉所
	10月	総合防災センター中核施設開設 南消防署東光出張所開設(総合防災センター中核施設内) 消防救急課, 指令課及び防災課が総合防災センター中核施設に移転 消防防災情報システム運用開始 全国共済農業協同組合連合会北海道本部から救急自動車寄贈
	11月	消防査察車購入 株式会社伊藤塗工部からA E D及びA E D収納ケース1式寄贈
平成21年	1月	株式会社オストジャパンからちよいカレー30g(1,200本)寄贈
	2月	株式会社旭川保健医療情報センターからパーソナルコンピューター2式寄贈
	3月	救助工作車(型)購入
	8月	財団法人北海道市町村振興協会からA E D15式寄贈
	10月	査察車購入
	11月	伊藤・宇佐美・山田経常建設共同企業体からA E D及び収納ケース1式寄贈

平成21年	11月	査察車購入
	12月	高規格救急自動車2台購入
平成22年	2月	旭川北斗ライオンズクラブからA E D3式等寄贈
	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入 総務省消防庁から災害支援車 型配備
	4月	第20代消防長に小野田実氏就任 第3代防災監に松崎幸一氏就任 旭川中央ライオンズクラブから防火クラブシンボル旗寄贈 I N A B A J U M P P R O J E C T 実行委員会からベディスリーブ1セット及び小児用スティッフネック3枚寄贈
	5月	旭川市火防協会から映写用スクリーン1個及びデジタルビデオカメラ1個寄贈
	6月	旭川市危険物安全協会から防火・防災教育DVD及びクラリネット1本寄贈
	7月	国際ソロプチミスト旭川からテレビ及びDVDプレーヤー寄贈
	11月	旭川市消防音楽隊後援会からフルート1本寄贈
	平成23年	3月
8月		旭川市火防協会から緊急消防援助隊活動用ウェストバッグ15個寄贈
10月		花月会館株式会社から防火衣1式寄贈
12月		はしご付消防ポンプ自動車購入
平成24年	3月	調査車購入
	4月	第4代防災監に平野文彦氏就任 塚本重機株式会社から資機材搬送車寄贈
	6月	旭川市防火管理協会から防火防災DVD及びプロジェクター寄贈
	7月	旭川市火防協会からwindチャイム，トランペットミュート，トロンボーンミュート寄贈
平成25年	1月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	2月	高規格救急自動車2台購入
	3月	総務省消防庁から無線中継車配備
	7月	旭川市・上川町・鷹栖町消防広域化推進協議会を設置
	8月	旭川市・上川町・鷹栖町広域消防運営計画を作成
	9月	旭川市・上川町・鷹栖町消防事務の委託に関する協議書合同調印式を開催 査察車購入
平成26年	2月	消防救急デジタル無線整備工事完了 指揮隊車購入 高規格救急自動車購入
	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入
	4月	旭川市・上川町・鷹栖町消防広域化開始 防災業務を防災安全部に移管 消防救急デジタル無線運用開始（アナログ無線と併用）

平成26年	4月	旭川市消防音楽隊後援会からステージ用音響装置1式，トランペット1式，楽譜1式寄贈 INABA JUMP PROJECT実行委員会から非接触赤外線体温計1個寄贈
	8月	国際ソロプチミスト旭川から譜面台1台寄贈
	9月	一般社団法人北海道消防設備協会旭川市支部から訓練用水消火器10本寄贈
平成27年	1月	はしご付消防ポンプ自動車購入
	2月	高規格救急自動車購入
	3月	南消防署豊岡出張所改築移転 ・豊岡4条3丁目から，豊岡3条3丁目(東部まちづくりセンター内)に移転する。
	4月	第21代消防長に平野文彦氏就任
	11月	北海道国民保護共同実動訓練実施
	12月	株式会社旭川振興公社から屋形テント1張り寄贈 化学消防ポンプ自動車購入 査察車購入
	12月	査察車購入
平成28年	1月	指揮隊車購入
	3月	高規格救急自動車購入 水槽付消防ポンプ自動車購入
	10月	一般財団法人救急振興財団から救急救命普及啓発資器材1式寄贈
	12月	水槽付消防ポンプ自動車購入
平成29年	3月	高規格救急自動車購入
	5月	旭川市火防協会から防火防災DVD寄贈
	12月	指揮隊車購入
平成30年	1月	旭川振興公社から消防ホース巻取り機及びLEDヘッドライト寄贈
	3月	高規格救急自動車2台購入 化学消防ポンプ自動車購入
	4月	第22代消防長に吉野良一氏就任
平成31年	3月	救助工作車(型)購入 高規格救急自動車2台購入